



桑名石取祭

今年の桑名石取祭の祭車行事は、新型コロナウイルス感染症の流行およびその終息が見通せないことから休止され、一部の神事のみ執り行われることとなりました。

約400年の伝統ある神事の縮小および休止は、昭和34年に発生した伊勢湾台風の被害によって翌年の曳き回しが休止となって以来、60年ぶりの出来事です。

桑名石取祭の起源

桑名石取祭は約400年前、江戸時代初期に始まりました。

その起源は諸説ありますが、低地であった神社の土地を整備するため、氏子たちが納涼のついでに員弁川（町屋川）の川原から栗石を拾い、奉納したのが始まりと言われています。

奉納は、夜には提灯をともし、太鼓鐘笛で囃しつつ行われましたが、見物客が押し寄せ、大なるにぎわいを呈し、人々を熱狂させました。

発展する祭車

祭りに用いられる祭車は、各町が競い合って年々発展していきます。豪華絢爛になりました。有名な彫刻士に作品を依頼したり、桑名の地場産業でもあった漆を塗ったり、また華やかな演出のために、職人の技と意匠を凝らした飾金具などが次々と装着されました。

世界の宝へ

平成19年3月には、国の重要無形民俗文化財に指定されました。祭りに用いられる祭車総数は43台（参加は最大40台）で、単一神社の祭礼だけでこれだけの多くの山車が一堂に会するのは、国指定重要無形民俗文化財の中では桑名の石取祭が最多です。平成28年12月には、石取祭を含む全国33件の山・鉾・屋台を使った祭りがユネスコ無形文化遺産代表一覧に記載され、世界を代表する祭りとして認められました。

広がった石取祭

桑名で始まった石取祭は、市内近隣で行われるほか、愛知・岐阜・三重で見られます。今年と同じく市内で行われている赤須賀神明社石取祭と長島町三町石取祭行事、内母神社の石取祭についても中止が発表されました。

桑名石取祭年表

江戸	慶長 18 年 (1613)	桑名の歴史を記した『慶長自記』に「七月十七日石取アリ」と記載あり	
	宝暦 5 年 (1755)	桑名神社の大祭である比与利祭 <small>ひより</small> から独立	
	文政 7 年 (1824)	「届」から「願」に改変され藩の規制が強化	
明治	明治 7 年 (1874)	当時の県令 (県知事) の命で石取祭が禁止される	
	明治 14 年 (1881)	厳粛な祭典規約を定め再興	
昭和	昭和 20 年 (1945)	太平洋戦争による空襲で多くの祭車が消失	
	昭和 27 年 (1952)	石取ばやしの競技会が初めて開催される	 <p>昭和30年頃 母山神社合祀社祭でのコンクール</p>
	昭和 35 年 (1960)	伊勢湾台風の影響により中止	
	昭和 44 年 (1969)	第 1 回 石取祭ばやし優勝大会の開催	
	昭和 46 年 (1971)	第 3 回 石取祭ばやし優勝大会 子供の部を創設	
	昭和 56 年 (1981)	三重県の無形民俗文化財に指定	
平成	平成 10 年 (1998)	第 30 回 石取祭ばやし優勝大会 女子の部を創設	
	平成 19 年 (2007)	国の重要無形民俗文化財に指定	
	平成 28 年 (2016)	ユネスコ無形文化遺産に登録	
令和	令和 2 年 (2020)	新型コロナウイルス感染症の影響により曳き回しなどが中止	

この1年、待ちに待った祭りの休止は残念であり、私自身非常に悔しいですが、祭り関係者・観客の安全を優先、この伝統ある祭りを次代へ継承するため、ひいては次代へ継承する皆さまの命を守るためであることをご理解いただきたく存じます。

この災禍さいかが一刻も早く終息し、来年の祭りは今年の皆さまの思いも加え、より一層パワー溢れる祭りにしたいと考えています。

桑名石取祭保存会会長

伊藤 文郎ふみお さん



今年の桑名石取祭の祭車行事は、新型コロナウイルスの終息が見通せないことから、行事の縮小、祭車の曳き回しなどの休止という苦渋の決断となりました。

祭車曳き回しなどが休止となり、大変心苦しい限りではありますが、大切な人を守るといのが1番だと考え、今年はまだ我慢し、来年最高の御神事ができるように連盟一同準備をしていきたいです。

青年連盟会長

森岡 大貴だいき さん



石取祭に参加している小学生

山田 紗也さや さん



石取のない夏なんて大嫌いだー。石取のない夏と私たちがいない学校ってなんだか似てると思いました。両方とも静かです。つまらないです。

来年は2年分みんなで楽しみたいです。